



社会教育でめざす 『ひとづくり・つながりづくり・ まちづくり』

皆さん、こんにちは。寒川町社会教育委員の●●です。

これから、寒川町社会教育委員による事例発表を行います。

本日の地区研究会のテーマは「社会教育でめざす『ひとづくり・つながりづくり・まちづくり』」です。

まず、私たちの寒川町について簡単にご紹介させていただきます。

寒川町は、古くから相模国一之宮、寒川神社の門前町として知られていますが、町内には旧石器時代の遺跡など、太古の昔から人々が生活していた痕跡が残っています。

昭和15年に町制を施行して寒川町となり、昭和30年代半ばから高度経済成長期に工場が相次いで進出し、人口が急増し始めました。その後も増加傾向をたどり、令和5年4月1日現在で48,545人と神奈川県内で人口の最も多い町となっています。

いつ現在にするか？

町域は東西2.9キロ、南北に5.5キロ、面積は13.42平方キロメートルで、おおむね平坦なコンパクトな町です。

町の南北方向に走るJR相模線は、大正10年にまず茅ヶ崎・寒川間で開通し、現在は町内に3つの駅があり、町民の足として利用されています。

また、首都圏中央連絡自動車道(さがみ縦貫道路)が開通し、平成25年に町内にインターチェンジが2か所設けられたことにより、町民や企業にとって交通利便性が大幅に向上しました。



寒川町内の主な学校教育施設は、小学校5校、中学校3校、県立高校1校、社会教育施設は公民館が3館4施設、図書館が1館あります。

公民館については、本日の会場である町民センターは昭和54年度開館でホールや展示室を備えた大型公民館です。この他に寒川小学校の余裕教室2部屋を活用した町民センター分室があります。

北部地区と南部地区には老人福祉センターと公民館の複合施設となる文化福祉会館があり、それぞれ集会室や実習室、図書館分室を備えた施設となっています。

寒川総合図書館は寒川文書館との複合施設で、平成18年度に開館しました。蔵書が最大23万冊収容でき、町内外から多くの利用者がいます。

寒川町の公民館と図書館は平成29年度から指定管理者制度を導入し、民間事業者による管理運営を行っています。外部評価や地域のニーズを取り入れた社会教育施設の在り方を検討していくため、社会教育委員会議の中に公民館及び図書館に関する事項を専門的に協議する公民館部会、図書館部会を設置しています。

本日の研究発表では公民館部会と図書館部会でそれぞれ事例発表をさせていただきます。



事例発表① すべての世代が集う 公民館をめざして

本日の全体テーマは「社会教育でめざす『ひとづくり・つながりづくり・まちづくり』」としました。

近年は少子高齢化、情報化、グローバル化の進展、地域コミュニティの衰退、昨今は新型コロナウイルス感染症拡大など、私たちの生活には急速な社会環境の変化と課題が顕在化しています。

豊かな人生を送るためには、生涯にわたる学びを通じて行動変容をすることが必要とされており、ここに社会教育の力が期待されています。

地域の社会教育活動には、仲間と学び合い、支え合うことで、人と人との交流が深まり、地域コミュニティの維持・活性化に貢献していくことが大きな役割となります。

地域に居場所があること、仲間がいることで自己肯定感が得られ、地域に対する愛着、よりよい地域づくりに持続的に取り組もうという意欲にもつながります。

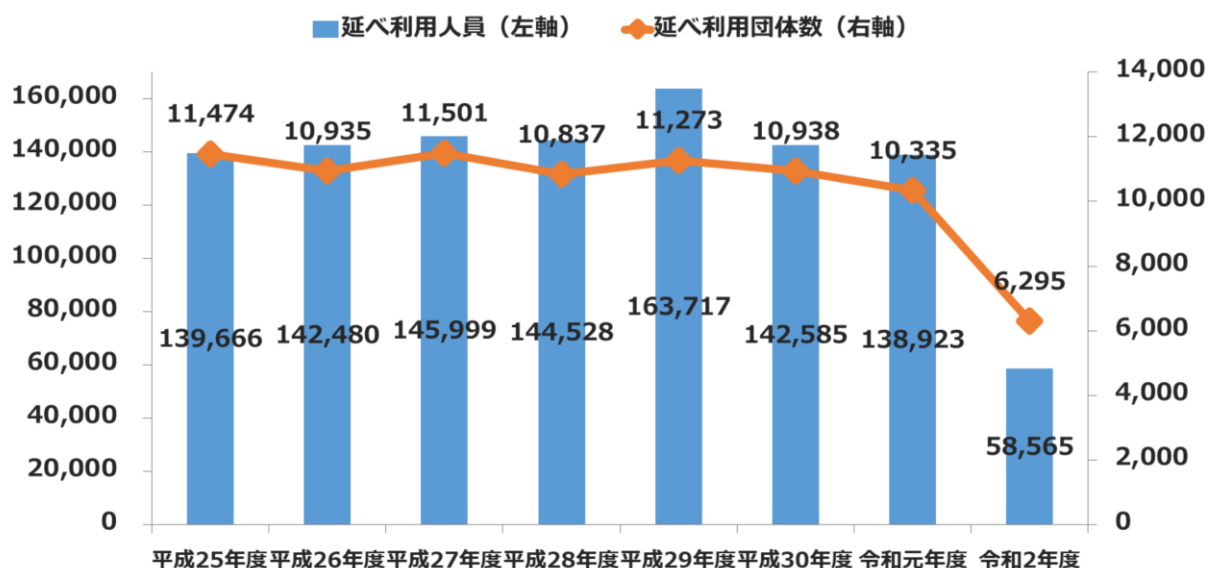
このようなことから、町民の学びの拠点となる公民館や図書館での人や地域をつなぐ取り組みについて本日は事例発表を行います。

初めに公民館部会の「すべての世代が集う公民館をめざして」から発表いたします。

公民館年度別利用状況（4館合計）

（人）

（団体）



町内4つの公民館は自主的なサークル活動で多くの利用がある身近な学習場所です。また、公民館の講座やイベントは様々な分野や対象に向けた内容を企画し、地域コミュニティを育む交流の場としても重要な役割を担っています。

令和元年度までは利用団体数、利用者数は横ばいであり、利用者が増えず固定化している状況がありました。

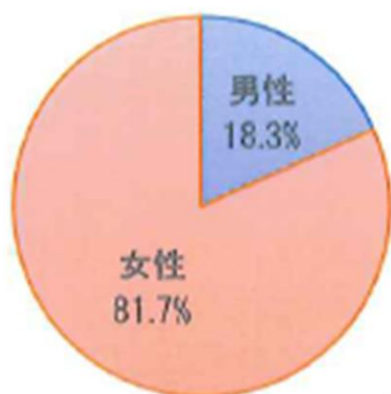
そして、令和2年から拡大した新型コロナウイルス感染症は、公民館活動にも大きな影響を与えました。グラフは公民館の年度別利用状況です。公民館は3月から6月まで臨時休館となり、外出自粛要請など、人が対面で集まる機会が減ったことで、公民館の利用が大幅に落ち込みました。

学校のPTAや、自治会・町内会、地域の伝統行事なども活動自粛となったことで、地域のつながりがさらに希薄になりました。

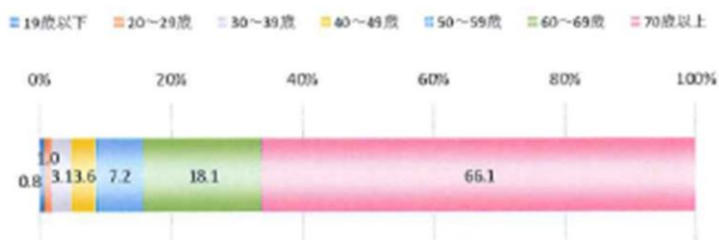
そこで、地域コミュニティの衰退や社会的孤立が課題となる中、公民館が地域の学習拠点としての役割を果たし、人々がつながるためには、どのような取り組みが必要とされているのか検討しました。

公民館利用者の男女比・年代

男女比



年代別割合



令和2年度公民館利用者満足度調査より
[回答者389人]

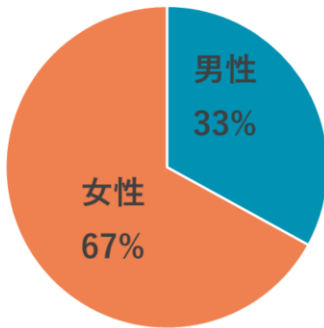
まず、コロナ前に公民館をどのような人々が利用しているのかをアンケート結果から分析しました。

公民館では、主に公民館サークルを対象に毎年「公民館利用者満足度調査」を実施しています。

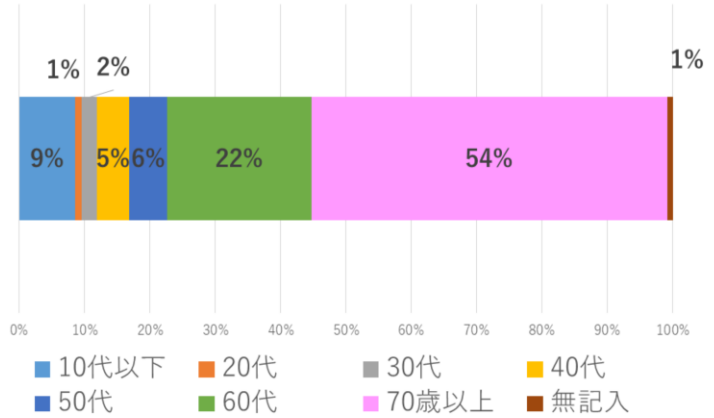
このグラフは令和2年度実績です。定期利用者の81.7%が女性、年代別では70歳以上が66.1%と割合が非常に大きくなっています。

公民館講座参加者の男女比・年代

男女比



年代別割合



令和2年度公民館講座参加者アンケートより
[回答者669人]

こちらは令和2年度の公民館講座に参加した方へのアンケート調査結果です。こちら参加者の67%は女性、年代は70歳以上が54%と過半数を占めています。

この2つのアンケート結果からも、公民館利用者はシニア世代の女性の利用は多くありますが、男性と20代から50代までの働き盛り世代・子育て世代が少ない結果が出ています。

人生100年時代が到来し、誰もが「生涯学習社会」の実現をめざす必要があるとされておりますが、地域の公民館利用の実状としては、利用者の性別、年代に偏りがあることが明らかになりました。

公民館に
すべての世代が集うためには
どのような取り組みが
できるのか？



そこで、公民館にすべての世代が集うために、関心を高めてもらう取り組みを考えました。

公民館をあまり利用していない世代とその原因

①中学生・高校生・大学生

生活圏や活動範囲が広がり、地域での活動が少なくなる。

②勤労世代

平日は仕事に時間がとられ、あまり地域に目が向かない。

③定年退職世代（とくに男性）

今まで地域と接点のなかった人は、活動に入るきっかけが難しい。

公民館の存在を知らない。

公民館を知るための情報発信が足りない

まず公民館を利用しない世代とその原因について考えました。

学生世代は、年齢が上がるほど、生活圏や活動範囲が広がり、地域での活動が少なくなること。

勤労世代は、平日は仕事に時間がとられて、休日や勤務後の余暇時間があっても地域での活動にはあまり目が向かないこと。

定年退職をした世代でとくに男性は、自治会などの地域活動や子育てなどを家族に任せきりであった人ほど、地域との接点がなく、地域での活動に入るきっかけが難しいこと。

このような世代の人には地域で活動する入口として、公民館をもっと活用してほしいところですが、公民館利用者が増えないところには、まず公民館の存在が知られていない、公民館を知るための情報発信が足りていないのではないかという意見が出ました。

公民館を利用していない人へのアプローチ方法

- ①公民館を知ってもらう
→公民館活動、サークルへの認知を高める
- ②公民館に来てもらう
→公民館に入りやすい雰囲気をつくる
- ③公民館活動に参加してもらう
→魅力的な公民館講座を企画する
- ④公民館活動を継続してもらう
→公民館サークル活動の参加を促す

そこで、公民館を利用していない人へのアプローチ方法を検討しました。

1点目はまず、公民館を知ってもらうこと。あらゆる世代に向けて公民館活動、サークルへの認知を高めること。

2点目は、公民館に来てもらうこと。小学生などは学区に公民館がなければ、自主的に足を運ぶ機会が少ないです。また、公民館の場所を知っていても、建物の中に入るきっかけがつかめない人もいますので、入りやすい雰囲気をつくることが重要です。

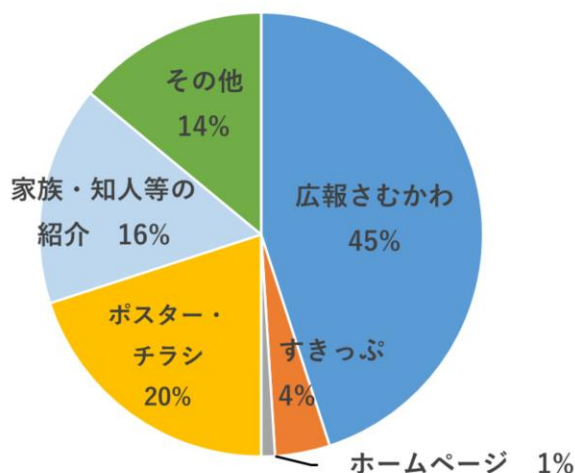
3点目は、公民館活動に参加してもらうこと。活動するきっかけとなるように魅力的な公民館講座を企画すること。

4点目は、公民館活動を継続してもらうこと。サークル活動に参加し、定期的に公民館を利用してもらうこと。

この4点について考えました。

①公民館を知ってもらう

参加した公民館講座の開催情報を知った媒体



令和2年度公民館講座参加者アンケートより

まず、1点目の「公民館を知ってもらうこと」について、現在、公民館に来ている人はどのようなところで情報を得ているのか、公民館講座の参加者アンケートで分析しました。

令和2年度の参加者アンケートの結果では、町の広報誌「広報さむかわ」が45%となっています。「すきっぷ」は、町内の保育園、幼稚園、小学校を通じて幼児・児童に年4回配布している子ども対象事業に特化した情報紙で、これが4%となっており、広報誌とすきっぷという紙の情報誌によって開催情報を知った方が全体の約半数となっています。

この調査では、ポスター・チラシが20%となっており、町内の広報掲示板や公民館内に掲示するポスターから情報を得ている人も一定数おり、効果があることがわかりました。

反対に、最近はスマートフォンやタブレットを持つ方が多くなりましたが、公民館講座の情報をホームページから知る方は1%と非常に低いこともわかりました。

しかし、認知度としては低くても、やはりインターネットを活用してタイムリーな情報を発信することも重要だと考えます。

11



現状では、広報誌や掲示板のポスターなどの紙媒体から情報を得る利用者は多いですが、公民館活動の認知を高めるためには、あらゆる世代に「見える化」を図ることが重要です。

若い世代に向けてはスマホなどインターネット環境から情報を得る場合が多いことから、紙媒体とインターネット媒体の2本立てでPRを行っていくことが良いとの意見がでました。

そこで、公民館の指定管理者がSNSによるPR方法として、講座の開催情報はFacebook、公民館サークルの活動を紹介する動画はYouTubeで発信を始めました。

②公民館に来てもらう →公民館に入りやすい雰囲気づくり



町民センターのロビー



町内の広報掲示板

2点目の「公民館に来てもらう」ためには、まず公民館の存在を知ってもらわなければなりません。

幼稚園・保育園、小中学校のPTAや保護者会の集まりで、打ち合わせや懇親会ができる場所を探しているというニーズはあっても、公民館を利用できることが知られていないという意見もあり、ニーズがあっても存在が知られていないという課題について、まず公民館へ来てもらうために、公民館に行きやすく、入りやすい雰囲気づくり、分かりやすい利用案内がほしいといった意見が出ました。

また、現在の公民館は駐車場が少ない、コミュニティバスが近くを走っていないなど、「公民館に来てもらう」ために必要な、公民館へのアクセスのしやすさについても意見が出ました。

これに関し、町内のすべての公民館は、建設後40年以上が経過し、老朽化が進み、寒川町公共施設再編計画では公民館の移転が検討事項となっています。

この計画では、公民館の各部屋の稼働率から現行の機能とニーズに不一致が生じていることが指摘されていますが、社会教育施設である公民館については、単に稼働率だけを見るのではなく、「住民ニーズ」と「社会の要請」の2つに応えていくことが必要です。

「公民館に来てもらう」ためには、公民館に入りやすい雰囲気づくりのほか、アクセスのしやすさや、社会教育施設として持つべき機能、それを最大限に発揮するための環境づくりをしていくことが必要です。

③公民館活動に参加してもらう →魅力的な公民館講座づくり



星空観察会



そば打ち教室

3点目の「公民館活動に参加してもらう」では、公民館講座は、町民のニーズに合った事業を開催することができれば、多くの参加者が来ることが望めます。公民館講座に参加した経験ができれば、その後も講座に参加することや、サークル活動に参加するきっかけにつながります。

公民館講座の参加者は約70%が女性であるため、男性の利用を増やすためには、来やすいように男性対象に特化した内容や募集方法を工夫する必要があります。そば打ち教室や、歴史講座は男性に人気があります。

また、親子で参加できる事業には、子育て世代の保護者の参加も見込めます。星空観察会や親子工作教室は、父親の参加も多く見受けられました。

初めて参加した男性や子育て世代が継続して公民館に足を運んでもらえるような魅力的な講座づくりが重要です。

③公民館活動に参加してもらう →公民館講座の申込手続きの工夫

寒川町つといの広場
寒川町民センター・分室

公民館ホームページで毎月の講座・イベント情報発信

講座参加の申込手続きにWeb申込フォームを導入

親子でクラフト教室_2023年10月2日(月)開催

「親子でクラフト教室」2023年10月2日(月)開催 材料費100円
【受付期間(24時間受付)】9月2日(土)9時~9月24日(日)17時 定員6組

1)申し込み後、翌日までに受付確認の返信メールが届かないときは下記に連絡願います。
2)申し込み内容の訂正または取り消しは下記に連絡願います。
3)9月25日(月)に抽選し、結果はメールで連絡します。
4)抽選日の翌日までに抽選結果の連絡がないときは下記に連絡願います。
※南郡公民館(電話:9時~17時)0467-75-0281 (FAX)0467-75-1777

(保護者)お名前 姓 名
必須 ふりがな
セイ メイ

(保護者)メールアドレス 必須 公民館からのメール(COO@sankaa-c.jp)が受信できるアドレス

(保護者)電話番号 必須 ※日中つながる電話を、「0」から「-」無しで入力してください

お子様のお名前 姓 名
必須 ふりがな
セイ メイ

公民館講座に参加するためには申込手続きが必要です。これまでは公民館の窓口か電話で申し込み受付をしていましたが、公民館の開館時間である午前9時から午後5時までに手続きをしなければならず、共働き家庭の多い子育て世代には申し込みがしにくい状況がありました。

そこで、令和4年度から新たにインターネットで手続きができる申込フォームを新たに始めました。

スマートフォンやパソコンで24時間いつでも申し込みできることから、大変好評で、子ども対象の講座の申込が増加しました。

これまでの講座参加者には常連が多く見受けられましたが、申込手続きがしやすくなったことで、初めて参加したといった新たな利用者の獲得、固定化の解消につながっています。

夏休みの子ども対象事業など、参加申し込みが多いことが見込まれる講座は抽選方式で受付をしています。講座によっては定員の3倍を超える申込もあり、落選者が多いことは心苦しいですが、先着順よりチャンスが増えること、潜在的ニーズが高い企画内容であったことが申込者数という数値で効果が見えるようになりました。

だ が し や 楽 校
11月23日(水) 勤労感謝の日
13:30~15:30 町民センター
☆参加費無料!! ☆多入退場自由!!

出店者が 特技・技能を 披露し、来場者 が参加体験できる イベントです。 楽しくものづくり してみませんか?

日時
11/23
13:30~15:30
町民センター

詳しくはこちら

「高座」のころ。 高座郡さむかわ

初めての卓球、 チャレンジ しよう!

北部公民館
こども卓球教室

開催日 7月25日、8月1日、
8日、22日(すべて火曜日)
14:00~15:30

対象 町内在住の小学生24人
条件 4回すべて参加できる人
持ち物 室内シューズ、ラケット
(ラケットは貸出もできます)

定員に達していないため、 先着順で追加募集中!

申込はこちら

申込はこちら

また、寒川町では町公式LINEを開設し、約1万5千人の登録者がいることから、令和4年度から公民館講座の情報のLINE配信を始めました。

町の広報誌を発行した後、申込開始日や開催日近くに情報発信できるメリットがあり、積極的に情報発信するようにしたところ、配信直後に申込者が増える効果が出てきました。

とくに先ほど紹介したインターネットの申込フォームを利用している講座は、LINEの画面から申込手続きへ簡単に遷移できるため、利便性の向上が図られました。

町公式LINEで情報発信を始めた頃は、町民に「町からのお知らせが頻繁でわずらわしい」との意見もありましたが、最近は「町のいろいろな情報を知ることができて良い」と好意的な意見が大半となってきました。

令和5年度から公民館講座参加者アンケートに町公式LINE登録状況を確認していますが、参加者の46%が登録しており、情報発信に有効な媒体となっています。

④公民館活動を継続してもらう →公民館サークル活動の参加を促す



初心者ウクレレ教室



初心者健康マージャン教室

4点目の「公民館活動を継続してもらう」ためには、人と人がつながることが重要で、公民館サークルの育成、支援を充実させる必要性があります。

令和2年度の新型コロナウイルス感染症拡大の影響で公民館の利用者数が減少しましたが、これは各サークルの会員数が以前より減少していることが大きな要因となっています。

公民館がサークルと個人をつなぐ役割となるように、「サークル入会体験フェスタ」を毎年5月と11月に開催しています。この1か月間に公民館サークルの見学会や参加体験日を設定し、既存サークルへの新規会員の加入促進を支援しています。

平成29年度から毎年期間を設定して実施をしていますが、フェスタ参加者やサークル加入者はそれほど多くない状況です。そこで、私たちは公民館サークルの会員が減少している根本的原因について考えました。

公民館サークルの会員減少について

- ①公民館活動・サークルへの認知が低い
- ②サークル活動をする人に若い世代が少ない
- ③利用しない人には「団体に入るとは面倒」という気持ちがある
- ④サークルには新しい人を入れたくないという気持ちがある

公民館サークルの会員が減少している原因として、公民館部会で意見を出し合ったところ、4つの問題が見えてきました。

- ① 公民館活動・サークルへの認知が低い
- ② サークル活動をする人は若い世代が少ない
- ③ 利用しない人は「団体に入るとは面倒」という気持ちがある
- ④ サークルに新しい人を入れたくないという気持ちがある

この4つの問題の改善方法について考えました。

①公民館活動・サークルへの認知が低い

北部公民館

サークル入会体験フェスタ

11月1日(火)～11月30日(水)

※事前予約不要、気軽に見学・体験してください

サークル名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	時間
1 舞踊会(舞踊)																															8:30～12:30
2 花ざかりアート(絵画)																															12:30～18:30
3 舞踊会(舞踊)																															18:30～19:30
4 舞踊会(舞踊)																															18:30～19:30
5 舞踊会(舞踊)																															12:45～18:45
6 舞踊会(舞踊)																															18:30～19:30
7 舞踊会(舞踊)																															8:30～11:30
8 舞踊会(舞踊)																															20:00～21:00
9 舞踊会(舞踊)																															18:30～19:30
10 舞踊会(舞踊)																															12:30～18:30
11 シンセシン(シンセシン)																															12:30～17:30
12 音楽部(シンセシン)																															12:30～18:30
13 音楽部(シンセシン)																															12:30～18:30
14 音楽部(シンセシン)																															18:30～19:30
15 音楽部(シンセシン)																															18:30～19:30
16 音楽部(シンセシン)																															18:30～19:30
17 音楽部(シンセシン)																															18:30～19:30
18 音楽部(シンセシン)																															8:30～12:30
19 音楽部(シンセシン)																															18:30～19:30

お待ちしております ○:見学・入会体験日
北部公民館 TEL 74-1515 FAX 74-7405

まず、課題の1点目、「公民館活動・公民館サークルの認知が低い」ことについては、「見える化」が足りないことがあります。

公民館の活動を知ってもらうためには、町民に対して繰り返し情報提供を行うことが重要で、全世代の目にとまるようにするためには、紙媒体とインターネット媒体の両輪で進める必要がありますが、さらに情報が来るのを待っているのではなく、情報を得ようと能動的になってもらうことが望まれます。

各公民館にはどのようなサークルがあるのかがあまり知られていないため、公民館の入り口付近にサークル一覧を掲示したり、サークル一覧を配布していますが、これを公民館以外の場所でもPRすることが有効ではないかとの意見がでました。

サークル入会体験フェスタについては、参加を促す工夫が必要であり、サークルの内容や参加できるスケジュールを確認しやすいように、ポスターにはサークルの体験実施日が一目でわかるレイアウトにして、町内の広報掲示板に貼るようにしました。

さらにサークル入会体験フェスタの期間前から公民館ロビーでサークルの作品展示を行えば、それを見た人がフェスタ期間中に公民館に足を運び、サークル見学を促す契機になるのではないかという提案もあり、実行しています。

②サークル活動をする人に若い世代が少ない



課題の2点目は「サークル活動をする人に若い世代が少ない」ことです。
改善案としては若い世代の利用を増やす取組を仕掛けることがあげられます。

中学生、高校生といった学生の利用者を獲得するために、趣味を同じくする人や趣味を持った人達でサークルが作れるように支援してはどうかという案が出ました。

それぞれの都合に合った日程や時間などから選択して活動できるように、公民館の活動や行事などがもっと認知されれば、参加者も見込めるのではないかと考えます。

②サークル活動をする人に若い世代が少ない

③利用しない人には「団体に入ることは面倒」という気持ちがある



課題の3点目の「利用しない人には「団体に入ることは面倒」という気持ちがある」ことです。地域に仲間がいて、活動が楽しいという気持ちを高める工夫してはどうかという案が出されました。

公民館利用者拡大のためには、ニーズの高い趣味的な内容のほか、運動や健康関係など公民館に行きたくなるような講座を開設し、その講座への参加にとどまらず、仲間との居場所づくりや新しいサークルの結成に繋げていく団体育成の支援も重要です。

とくにリタイア世代の男性は、働いていた時期に地域とのつながりが希薄だった場合が多く、地域活動に参加するきっかけづくりが難しいことも考えられます。

②サークル活動をする人に若い世代が少ない

③利用しない人には「団体に入ることは面倒」という気持ちがある



ニーズを探り、公民館
に行きたくなるような
講座を開設して
新しいサークル結成
につなげる



まず公民館講座に参加して、参加者同士が仲良くなり、居場所づくりとなることで、もうちょっと続けてみたいという意欲がわきます。さらに、「健康にいい」、「生きがいを感じる」というような魅力が感じられる内容であると、サークル化に繋がりやすい傾向があります。

この時にサークルにしようと音頭を取ってくれる人の存在は非常に大きいです

④サークルには新しい人を入れたくないという気持ちがある

課題の4点目は「既存サークルには新しい人を入れたくないという気持ちがある」ことについて、改善案として、新しく参加する人が委縮したり、疎外感を感じなくしたりする配慮をするという意見がありました。

運動系サークルは活動場所の広さと人数の兼ね合いがあり、人数が増えると活動が難しくなる事情や、技量が違う人が入ってくると、サークル内にギャップが生まれてしまうため、受け入れはできない場合もあります。コロナ禍の中では、活動休止となったり、新規会員の受け入れをしないサークルもあり、既存サークルへの加入促進だけでは公民館サークルの活性化の実現は難しい状況が見えてきました。

ほかにも運営方法や活動の方向性など、サークルごとに様々な悩みはつきものですが、自分たちのサークルの中だけでは解決策が浮かばないこともあります。

④サークルには新しい人を入れたくないという気持ちがある

サークルで抱えてる課題を他の公民館サークルと情報交換や交流する機会をつくる

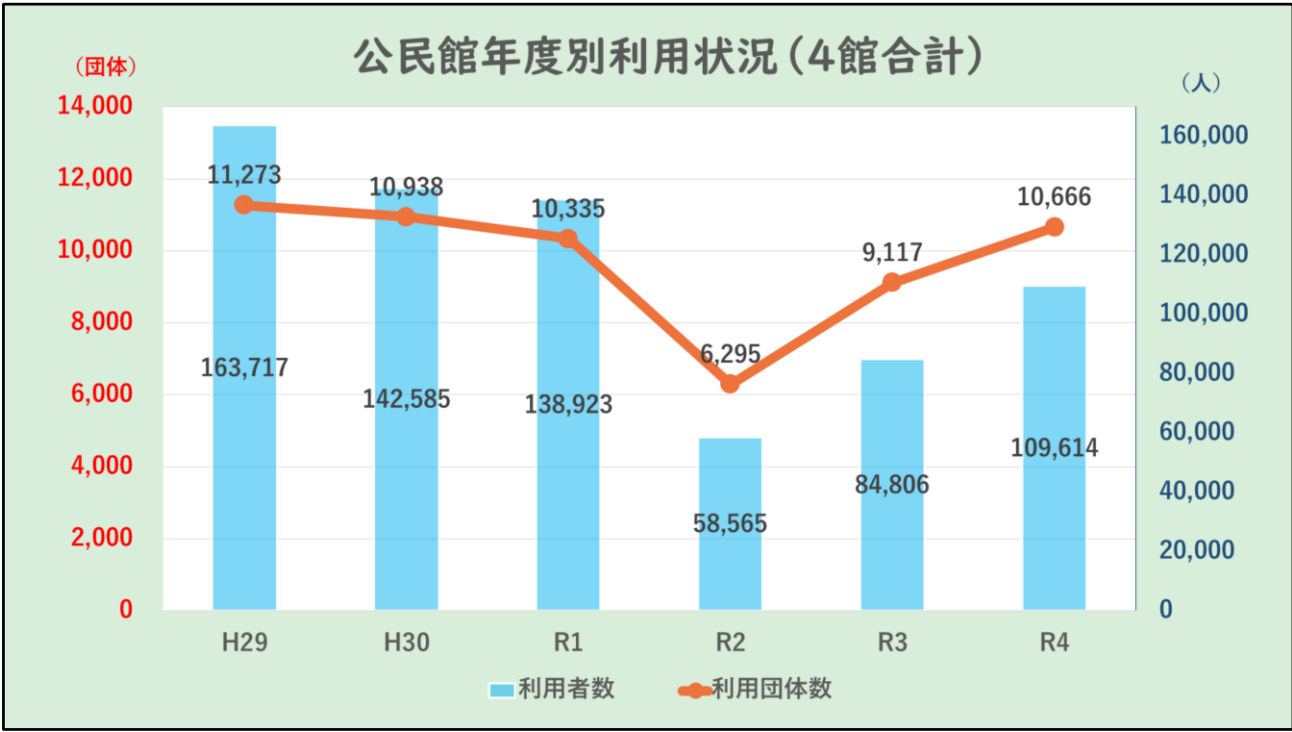


サークルの中の課題解決支援として、サークル同士で抱えている課題を情報交換したり、他のサークルと交流したりする機会があると、解決の糸口や、より新しいつながりを広げることができます。各館の登録サークルの交流会を行うことは有効なのではないかという意見が出ました。

取組結果



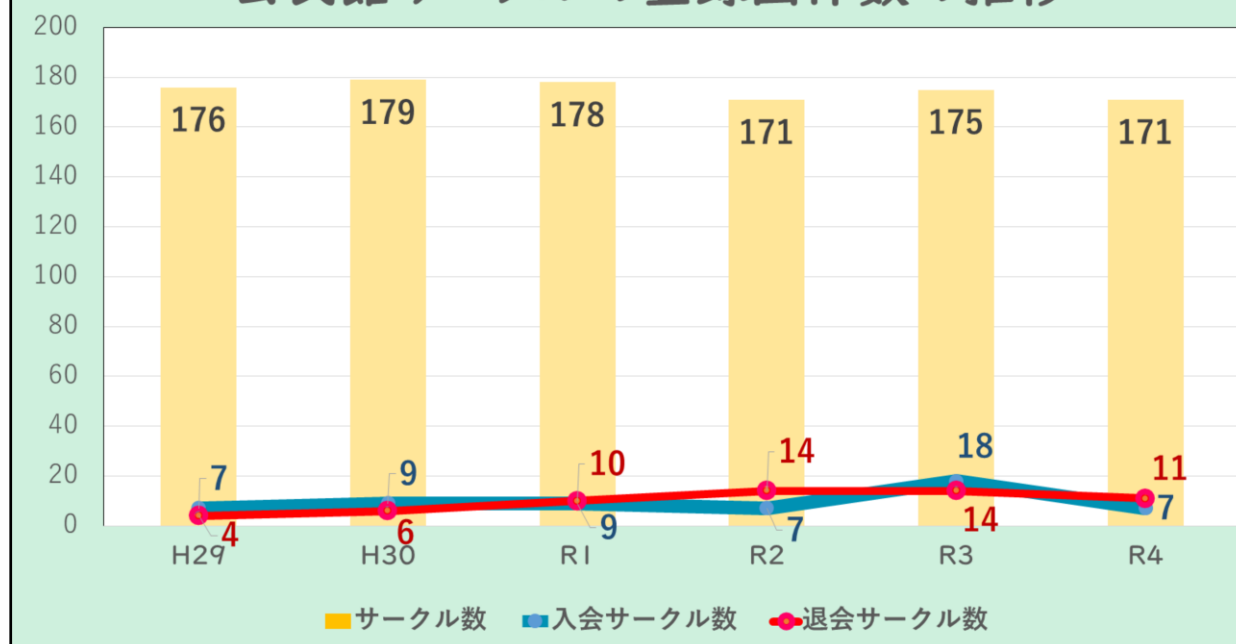
これらの取組を行った成果について、令和4年度の利用実績から検証してみました。



まず公民館の年度別利用状況ですが、令和2年度を最低値として、令和3年度以降は回復傾向が見られます。

令和4年度の利用団体数は令和元年度より増加しました。
利用者数については令和2年度より伸びてはいますが、まだ戻らないことから、これは各公民館サークルの会員数の減少が続いていることが考えられます。

公民館サークルの登録団体数の推移



公民館で定期的に活動するサークルは公民館の「利用者の会」に入会登録してもらいますが、登録団体数については、入会と退会がほぼ同じような数となっていることで、登録団体数が維持されていることがわかりました。

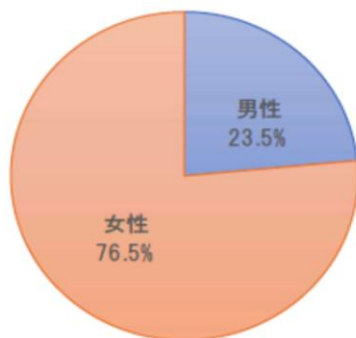
新型コロナウイルス感染症の影響で、高齢化して会員数の少なかったサークルは退会が増えましたが、それに対して、新しいサークルを結成する機運も高まったようで、令和3年度は表にある6年間のうちで最も多い18団体が新たに登録されました。

その中には公民館の連続講座からサークル化につながったものが6団体あり、令和4年度も新たに入会した11団体のうち、6団体が公民館講座からのサークル化でした。

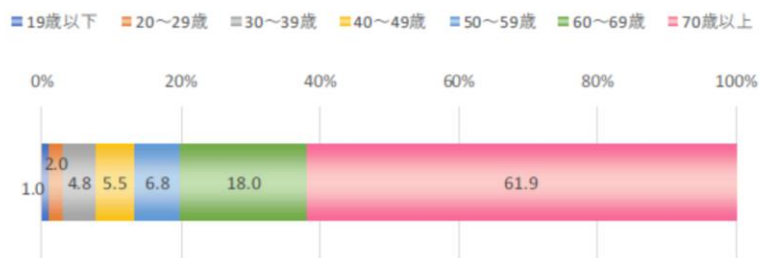
魅力的な公民館講座の企画がきっかけとなり、人をつなげ、継続的な学びにつながる成果となりました。

公民館利用者の男女比・年代

男女比



年代別割合



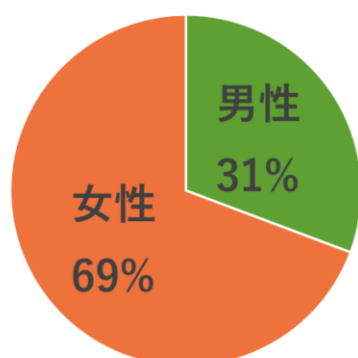
令和4年度公民館利用者満足度調査より
[回答者407人]

公民館利用者の年代と男女比については、主にサークル利用者を対象とした令和4年度の公民館利用者アンケート結果では男性が23.5%、70歳の割合が61.9%となりました。

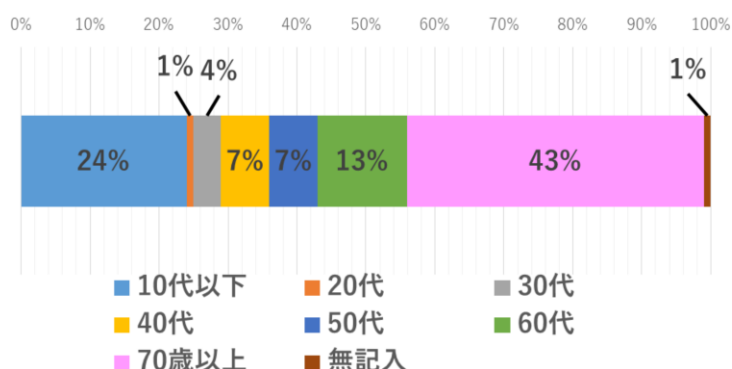
サークルの利用については、男性と60歳代以下の利用者が若干ではありますが、増加している結果となりました。

公民館講座参加者の男女比・年代

男女比



年代別割合



令和4年度公民館講座参加者アンケートより
[回答者2437人]

公民館講座参加者の男女比・年代については、令和4年度の公民館講座アンケート結果では、令和2年度と比較し、男性は2%減少していますが、60歳代以下の参加割合は11%増加しました。

公民館講座参加者は、サークル利用者よりも若い年代の利用が多いことから、公民館講座のサークル化を積極的に促すことで、公民館利用者の若返りが期待できるきざしが見えてきました。

また、男性の利用促進に向けて、さらなる取組が必要な結果となりました。男性の地域コミュニティへの参加を促進させるためには、60歳以下の年代には余暇時間の有効活用の提案のほか、リタイア後の男性の生きがいづくりにつながる、講座内容の工夫などがもっと必要であることが考えられます。

ここまで、公民館の現状と課題や、その改善策についてお話ししてまいりました。

寒川町の社会教育では、「町民が地域で学び、その成果がひとづくり、まちづくりに生かされている」ことをめざす姿としております。

公民館が地域の学びの拠点として、現在、公民館の利用が少ない男性や若い世代の地域活動への参加や、仲間づくりのきっかけをつくるとともに、子育て世代も含めすべての世代が地域で活発に活動できるよう、「すべての世代が集う公民館」を目指してまいります。

ご清聴ありがとうございました

寒川町社会教育委員会議公民館部会

小林 くみ

平本 正子

堀 洋己

山口 明伸

森 和彦

事例発表①「すべての世代が集う公民館をめざして」は以上になります。
ご清聴ありがとうございました。